

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	「新たな農業技術の普及により地域住民の食糧不足を改善する」という上位目標は、以下の理由から今後 2 年程度で実現することが見込まれる。 1. 当事業で試みたアプローチによる稲作収量増加の普及農法で、3 割以上の増収成果が実証され、農法技術が指導できる数多くの農民リーダーが育成された。 2. その農法を実践する農家は、対象地域の稲作農家の 13%以上となり、自発的な技術普及が発現する閾値 30%を当年度から 3 年間で達成するという見込みが確実になってきた。 3. 外部者のサンプル調査により、年間 3 か月食糧が不足する世帯が 17%に減ったことが確認された。 4. 今後、行政が活動を実施することになり、その予算が計上され、活動が実施されている。
(2) 事業内容	活動 1-1. 農民実践学校を通じて農法・技術モデルを確立する 対象 3 郡 10 社 (526 名) に対し、ニーズアセスメントをはじめとする 8 セッションをパッケージとした農民実践学校を 2 期実施した。 活動 1-2. 農民ネットワークを形成し、農法・技術モデルを確立する SRI 農法実践農家間の経験共有ワークショップを 2 回 (5 月: 55 名参加、9 月: 74 名) 実施した。12 月には事業の経験及び成果を省内で共有することを目的として、「クアンナム省内ワークショップ」を開催し、80 名が参加。ネットワークの定着と発展を図った。 活動 2-1. 農法・技術モデルの普及ツールを開発する 農民実践学校や SRI 農法の普及に関するビデオ教材を 2 種類作成。事業の展開と共に、農民リーダー達が SRI 農法技術指導者として省から認定され、行政だけではなく農民リーダーが農民実践学校で指導が出来るように、教材フリップチャート、ビデオに付随する SRI 農法マニュアル本、普及パネルおよびポスターを追加開発した。 活動 2-2. 情報共有ネットワークを構築し、農法・技術モデルを普及させる 社レベル、郡レベルでの情報共有ワークショップを開催した。 国レベルでは、12 月に「北部 SRI ネットワーク」の経験共有ワークショップをタイグエン省、ハノイで実施し、9 月に立ち上がった「中部 SRI ネットワーク」メンバーをはじめ、SRI 農法の普及に関わる国際 NGO や農業農村開発省植物保護局副局長も参加した。 活動 3-1. 小規模農家を支援するためのモニタリング体制を機能させる 省の植物保護支局、各郡農林業普及所、各社農林業普及センターによるモニタリングを 3 郡で合計 17 回実施した。事業開始時に提案されたモニタリング表を改善した。また、SRI 農法技術指導者として省から認定された農民リーダーを含んだモニタリング体制が完成

	し、機能性を高めた。 活動 3-2. 小規模農家の生計への影響を明らかにする ベトナム中部山岳地域における SRI 農法の適応性と普及手法としての農民実践学校の効果、ならび小規模農家への生計へのインパクトに関して、3 月～11 月にかけて、それぞれフエ農林大学（4 回）、フエ経済大学（2 回）の専門家が調査を実施した。 活動 3-3. 事業実施・管理運営体制を整備する 事業運営委員会等の主要メンバーによる視察研修を 12 月に実施した。タイグエン省の SRI 実践農家グループを訪れ、メンバーとの意見交換を行った。また、対象 3 郡の SRI 農民リーダー44 名による視察研修を 11 月に実施した。 9 月にはクアンナム省内での活動評価ワークショップをドンヤン郡及びダナン市で開催した。
(3) 達成された成果	【事業成果 1】食糧生産の安定化につながる農法が農民実践学校を通して導入される 下記の 3 指標に見られる通り、SRI 農法を実践する農家数が対象地域で事業開始当初に比べ 2.6 倍に増加し、これにより 3 割以上の収量増加を実現し、年間 3 か月の食糧不足に見舞われる世帯が 17% に減少した。 <u>指標 1) SRI 導入実践農家数（指標値：300 世帯）→403 世帯（達成）</u> SRI 農法実践農家数が 153 世帯から 403 世帯に増加（2.6 倍増）。 （指標値との比較 134.3%） <u>指標 2) 平均収量増加率（指標値：従来の収量から 20%増）→36.1% 増（達成）</u> 2 回の収穫期における外部者のサンプル調査結果（対象 2 郡の同一条件で栽培・管理された SRI 農法田と慣行農法田にて実施）により、慣行農法平均収量 3.6t/ha、SRI 農法平均収量 4.9t/ha した。SRI 農法は慣行農法に比べ平均 36.1%収量が増加。 <u>指標 3) 食糧不足月の変化（対象地域全体で、年間の食糧が 3 か月不足する世帯の割合が 40%から 35%に減少）→17%に減少（達成）</u> 対象 3 郡で SRI 実践農家 72 世帯、慣行農家 72 世帯をランダムに抽出して 2 回実施（計 288 世帯）したサンプル調査結果から、年間の食糧が 3 か月不足する世帯が 17%に減少した。 【事業成果 2】農法・技術モデルの普及体制が整う 現地における指導・普及の効果を確実にするため、計画を大きく上回る普及ツールの開発と、普及を担う技術者を育成することができた。特に後者においては、省・郡・社のそれぞれに核となる人材を備えたばかりではなく、村レベルで農民リーダーが数多く育ち、その中から近隣の村での指導にあたる者が出てきたことは、普及体制が縦と横のつながりで構築されたことを意味する。 <u>指標 1) 企画・開発された普及ツールの数（指標値：ツール 1 種）</u> 以下、6 種類の普及ツールが開発・製作された

	①普及ビデオ 1 (事業アプローチ・成果): 500 部 対象: 行政担当者、類似事業実施者 (NGO 等) ②普及ビデオ 2 (SRI 農法、農民実践学校について): 1000 部 対象: 行政担当者、農民リーダー ③SRI 農法マニュアル: 1000 部 対象: 行政担当者、農民リーダー ④農民実践学校用フリップチャート: 90 セット 対象: 農民実践学校実施指導者 ⑤SRI 農法啓発・普及パネル (行政庁舎・SRI 農法啓発・普及イベント用): 30 セット ⑥SRI 農法啓発・普及用ポスター (行政庁舎・村集会場等公共施設・SRI 実践農家用: 2000 枚 <u>指標 2) 農法・技術モデルの普及を担う技術者数 (指標値: 20 人)</u> 計 64 名が育成された (以下、内訳) 省植物保護支局 5 名、3 郡農業普及所 10 名、 社農業普及センター 5 名、農民リーダー 44 名 【事業成果 3】小規模農家を支援する体制 (農法技術改善とフォローアップ) が整備される 農民実践学校の実施により、省・郡・社の実務者レベルのコミュニケーションが以前よりもスムーズに行われるようになった。さらに事業を通じて開発されたモニタリングシステムでは、小規模農家との連携がより可能である農民リーダーも実施者として加わり、支援体制が整備された。 <u>指標 1) モニタリングシステム (素案) が作成される</u> モニタリング表 (案) を開発 (省・郡・社レベル各 1 部) モニタリングシステム (省⇄郡⇄社⇄農民リーダー) の完成 <u>指標 2) モニタリングの実施状況</u> 実施者: 省植物保護支局、郡農業普及員、社農業普及員 回数: 3 郡で 17 回実施 内容: 農民実践学校参加者数、実践及び応用者数、SRI 農法の効果、稲の生育状況、現在のモニタリングシステムの有効性、など 報告書: 各モニタリング時にベトナム語で作成
(4) 持続発展性	対象郡では事業完了後も引き続き活動が自立的に継続していくための人材 (技術指導者)、資金、支援体制から、持続発展性は高いと判断できる。本財団は今後半年間にわたり活動のフォローアップを通じて、さらにその確実性を高めていく。 ①人材=多数の農民リーダーの存在 本事業を通じ、44 名の農民リーダーが SRI 農法の指導者として省政府から認定を受けた。彼らが指導役を担う農民実践学校では、受講者と同じ民族の言語を使用するため、農民たちの理解度が高く、心理的距離も近い。省、郡、社の農業普及担当者では担いきれない働きを、農民リーダーが果たしている。SRI 農法技術の質を維持しながら農民実践学校が実施されるように、行政が定期的にサポート

	をしている。 ②資金＝対象 3 郡が活動継続のために予算を計上 郡独自で農民実践学校を継続し、SRI 農法を普及すべく、2015 年度の予算を計上し、1 月から実際に活動を実施している。 ③体制＝中部 SRI ネットワークによる支援 かつてベトナムには SRI 農法のネットワークが北部と南部にしか存在しなかったが、当事業により中部にも誕生した。これにより、省、郡、研究機関と農民リーダーをメンバーとし、情報・意見交換、SRI 農法の普及に留まらず、情報発信、普及体制の強化等が継続的に行われる。
--	---